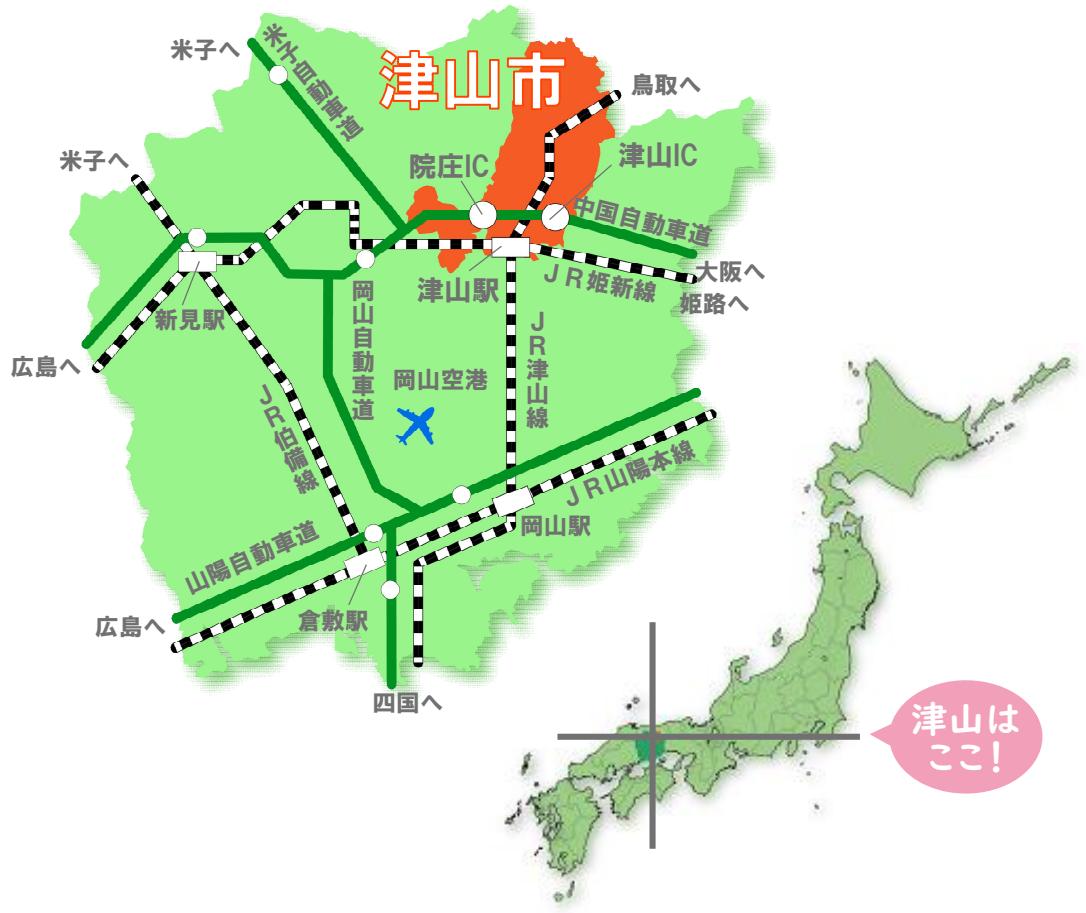


データドリブンで創る健康と幸福のスマートシティ推進事業

令和7年度「産学官連携による地域社会DXフォーラム」
令和7年12月2日（火）

津山市企画財政部デジタル推進室
室長 岡 美由紀

1. 岡山県津山市の概要



- ・岡山県北部の中心として、教育・医療・商業・文化施設が集積している。
- ・主な産業は、保健衛生・社会事業や食品・機械・金属などの製造業。

面積: 506.33 km²

人口: 93,756人 (令和7年11月1日時点)

(男性: 45,229人、女性: 48,527人)

世帯数: 45,404人 (令和7年11月1日時点)

高齢化率: 30.7% (令和2年10月1日時点)

平均気温: 14.0°C (東京15.8°C)

充実した高等教育施設

- ・美作大学
- ・津山工業高等専門学校
- ・個々の特色ある高校が5校



多数の著名人の出身地

- ・市民栄誉賞受賞者
稻葉浩志さん (B'z)
- ・津山ふるさと大使
井口浩之さん、河本太さん (ウエストランド) など



津山市市勢要覧から

地元毒舌プロジェクト
ポスターから

観光・文化

津山城跡、重要伝統的建造物群保存地区（2か所）、洋学資料館、つやま自然のふしぎ館

津山まなびの鉄道館（国内2番目の扇形機関車庫）



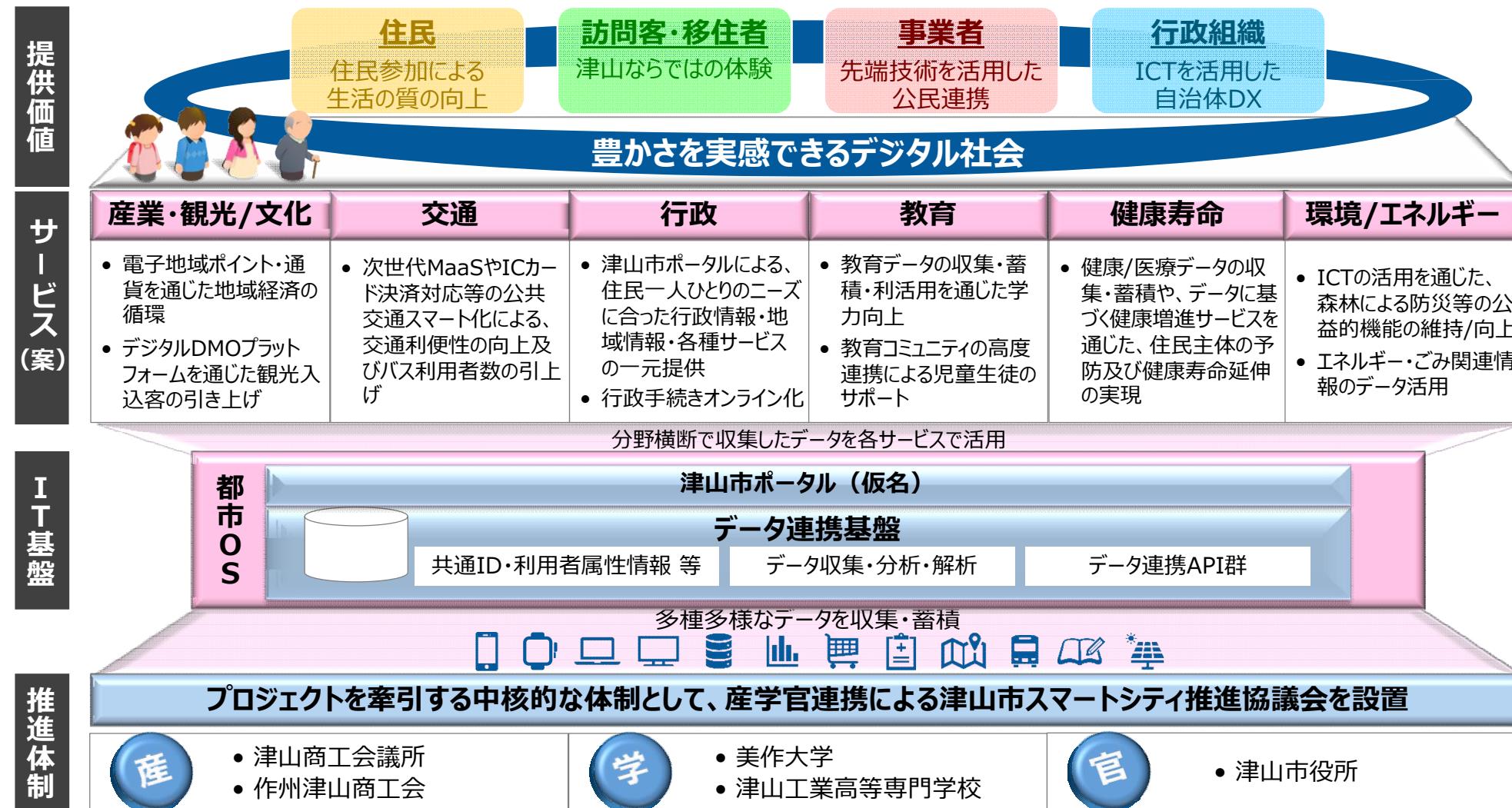
特産品等

牛肉（つやま和牛、干し肉、そすり肉、ヨメナカセ）、津山ホルモンうどん（ご当地B級グルメ）、しょうが、小麦ピオーネ、ジャンボピーマンなど



2. 津山市スマートシティ構想

津山市では、本市の将来を見据え、新しい時代（Society5.0）の実現を目指し、デジタル実装をより強力に進める**包括的な将来ビジョン**として、「津山市スマートシティ構想」（令和5年3月）を策定した。構想では、「産業・観光/文化」「交通」「行政」「教育」「健康寿命」「環境/エネルギー」「IT基盤」の7つの分野について、本市の課題を踏まえ、目指す姿とデジタル技術を用いた取組の方向性を示した。



3. スマートシティ構想の推進体制・取組

スマートシティ推進協議会

スマートシティ構想で目指す姿を実現するための組織として、産学官が連携してデジタル技術を活用した取組を推進し、地域課題を解決することを目的として、津山市スマートシティ推進協議会を設置（R 5.1.0）し、年1回総会を実施。

組織体制

【会長】津山市長

幹事会員

津山商工会議所 作州津山商工会

美作大学 津山工業高等専門学校 津山市

パートナー会員

一般会員

会員A 会員B

会員 a 会員 b 会員 c 会員 d 会員 e 会員 f

分科会（A事業）

会員A 会員 a 会員 b

分科会（B事業）

会員B 会員 c 会員 d

各会員について

幹事会員 津山市、津山商工会議所、作州津山商工会、美作大学、津山工業高等専門学校及び幹事会で必要と認めた団体

パートナー会員 会員としての参画の申し出に加え、本市を活動領域とした具体的な事業の提案等の申し出を行い、登録された団体

一般会員 会員としての参画の申し出を行い、登録された団体

健康寿命分科会

啓発活動の一環で、市が包括連携協定を締結している生命保険会社と本市の職員がスーパー店頭で啓発やアプリの入力サポートを行った。

大学・高専はポスターの掲示やチラシの配布などで協力。

地元ケーブルテレビ局と協力して啓発動画を作成し放映。「こんにちは市役所さん」

https://www.youtube.com/watch?v=YDNqC_QC9FO



津山市スマートシティ推進フォーラム（R 7. 2. 2）

1部のデジタルツール体験会・2部の基調講演・事業報告に合わせて約100人が来場。デジタルツール体験会では、アプリやシェアサイクルなど来場者が実際に体験。基調講演では慶應義塾大学の清水准教授が、地域づくりにおけるデジタル技術活用について話し、事業報告では市が運用するAI活用交通サービスや母子健康手帳アプリなどを紹介した。



4. 津山市における健康課題

関係部署が参加する作業部会で会議やワークショップを実施し次のような課題が分かった。

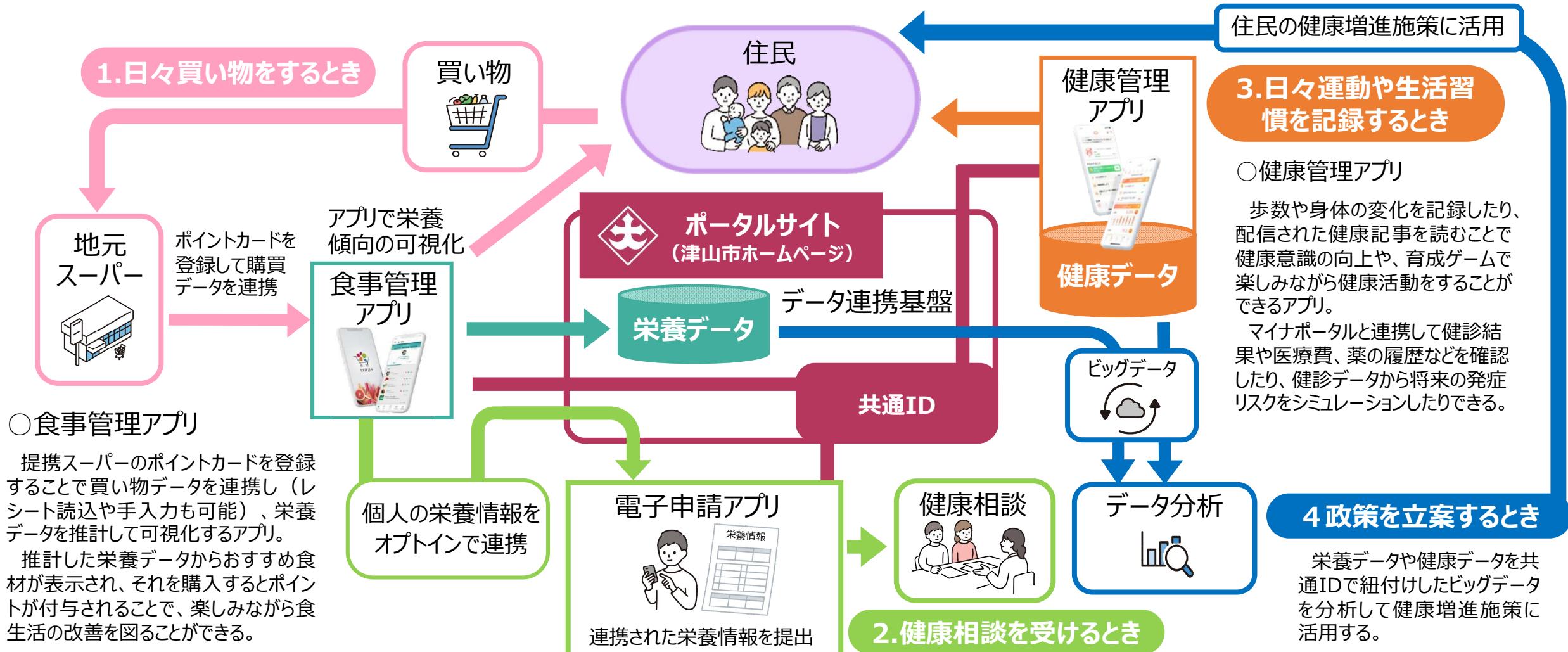
- ・ 健診・がん検診の受診率が低い
- ・ 糖尿病予備群・糖尿病罹患者が多い
　特定健康診査有所見者の割合（令和4年度）でHbA1cが国・県平均より高い。
- ・ 手続き及び健康関連データの取得・記録がアナログ
- ・ 肥満傾向児の割合（令和4年度）が県平均より高い
　小学生：12.6%（県平均：9.9%）
　中学生：11.4%（県平均：10.4%）

市が実施したアンケート※では、20代・30代が健康への関心が低い。※健康基礎調査アンケート（成人）R4.10~11実施
体調の変化が現れ始める40代から健康への関心が徐々に高まる傾向にある。

若いうちから健康への関心を持ち、望ましい食習慣や運動習慣を身につけることが大切だが忙しい世代。
デジタル技術の活用が有効ではないかと考え、次の観点からアプローチすることになった。



5. 食事・運動・健康管理をトータルでサポートする健康データの活用



- デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）TYPE2（R4第2次補正）
 - ・データ連携基盤の構築、市民ポータルサイトの導入（R6.2～）
 - ・電子申請システム・書かない窓口の導入（R6.2～）
 - ・買い物データを活用した栄養指導の実施（R6.2～）

- デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）横展開型（R6～R8）
 - ・健康管理アプリの導入（岡山連携中枢都市圏事業）（R7.2～）
- 地域課題解決のためのスマートシティ推進事業（R6）
 - ・健康管理アプリとデータ連携基盤との連携（R6改修）

6. 買い物情報から推計した栄養情報の活用①

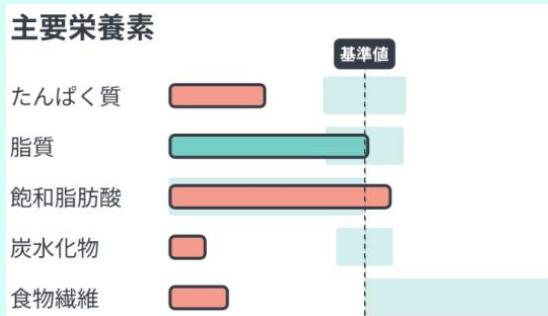
1.日々買い物をするとき

～食事管理アプリ「SIRU+」（シルタス）～

買い物情報から家庭の栄養傾向を知ることができ、通常の生活の中で無理なく自然に健康的な取組を行うことができる。

①自分の栄養傾向を「知る」

1週間ごとまたは買い物ごとの栄養バランスがわかる。



まめ知識が増える

購入した食材や栄養についての「お役立ちコンテンツ」が届く。

栄養傾向が点数化

モチベーションの向上。

今後リリース予定



②足りない栄養素を「足す」

不足気味の栄養素を補う食品がおすすめされる。おすすめ食品を購入すると、自然に栄養バランスが改善される。

③ポイントがたまってお得！

買い物の登録やおすすめ食品の購入・登録でポイントがたまる。電子ギフトに交換できます！



買い物の登録方法

- 市内の協力スーパー → ポイントカード連携で自動登録
※市内8店舗
- それ以外の買い物 → レシート撮影
- レシートがないもの → 手入力

7. 買い物情報から推計した栄養情報の活用②

2. 健康相談を受けるとき

～電子申請アプリ「スマホdeすまぞ」～

マイナンバーカードの署名用電子証明書を利用して利用者登録をする。



該当の申請書を選択すると、**食事管理アプリとの連携許可**を求められる。
「はい」をクリックすると、**データ連携基盤**に蓄積したデータから該当者のデータを抽出して電子申請側にセットし提出することができる。

市の栄養士が**客観的データを基に**健康相談を実施する。



例) 共働き世帯のAさんの場合

妻が残業続きの時は夫が買い物をして食事の準備をすることもあり、料理のバリエーションが少なく**惣菜の選択もワンパターン**になりがち。今のままの食生活で良いのか気になっている。

栄養データを見ると、各栄養素はそれなりに摂取できているにも関わらず、**ビタミンDのみ摂取量が少なかった**。ビタミンDが多く含まれる食材（魚やきのこ類など）の摂取状況についてヒアリングすると、魚は調理に手間がかかるため、きのこ類は子どもが嫌いなため、ほとんど購入していないとのことだった。

栄養傾向が可視化されたため、夫婦で食について話し合うきっかけとなり、双方が**以前より意識して魚やきのこ類を購入する**ようになった。

アプリで栄養傾向の可視化

食事管理アプリ



ポータルサイト
(津山市ホームページ)

データ連携基盤

栄養データ

共通ID

8. 歩数や活動記録、健康診断情報の活用

3.日々運動や生活習慣を記録するとき

～健康管理アプリ「kencom」（ケンコム）～

ポータルサイト（市ホームページ）でアカウントを作成した後に、健康管理アプリをインストールする動線を作つて**共通IDの登録へ誘導**



①歩数などが記録・管理できる

歩数、体重、睡眠、体温、血圧など毎日記録ができ、日々の**健康記録がひと目でわかります。**

②自分にあった健康情報が届く

利用者の健康状態に応じたおすすめ記事によるアドバイスや健康情報と記事を提供します。

③日々の目標を達成することでポイントがたまる

歩数やアプリで設定した目標を達成することで、ごんちゃん健康ポイントとケンコムコインがたまって、**抽選会に参加**できます。ケンコムコインは育成ゲームでも利用可能です。

④育成ゲームで楽しく健康に

アプリ内の記事を読んだり、指定された歩数を達成したり、体重を登録したりするなどの**健康行動がミッション**となり、ミッションを**達成すると、キャラクターが進化**します。

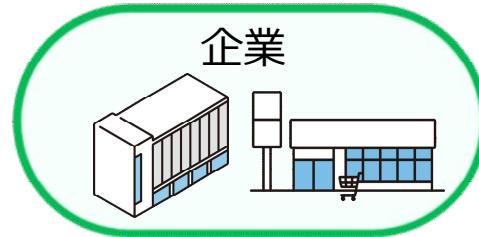
⑤将来の発症リスクをシミュレーション

ひさやま元気予報では、50年以上続く久山町研究（生活習慣病の疫学調査）の成果に基づき、将来の生活習慣病の発症リスクを提示するとともに、生活習慣の改善効果をシミュレーションすることができます。

⑥マイナポータルと連携

「マイナポータル」と連携し、健診情報、医療費通知情報、薬剤情報をユーザーの同意に基づき、「kencom」内で利用することができます。

9. まとめ



企業の活動

- ・ ポイントカードと連携する。
- ・ 普及啓発活動に協力する。
- ・ アプリやデータ連携基盤などのデジタル技術を提供する。

企業のメリット

- ・ 地域貢献により企業の社会的責任を果たしブランド価値が向上。
- ・ 新しい市場やビジネス機会を開拓できる。
- ・ 新たなサービス提供や新しい製品開発のための情報を収集することができる。

今後の課題

普及と理解の促進：住民に対して、新しいデジタルツールをどのように理解し、活用してもらうかが鍵となる。

協力の強化：住民、企業、行政がそれぞれの役割を果たし、相互に協力することが重要であると考える。

今後も地域課題に対する一体感を持つことができるような施策を検討していく必要がある。

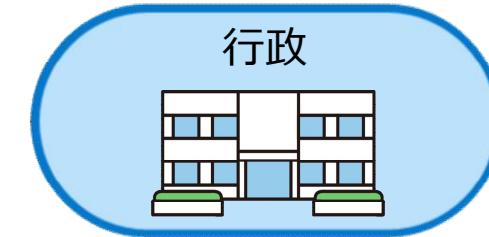


住民の活動

- ・ 健康管理アプリや食事管理アプリを利用して、日々の生活習慣（食事、運動）を改善する。

住民のメリット

- ・ 栄養バランスの改善、生活習慣病予防を実践できる。
- ・ アプリでのポイントや特典を通じて、楽しみながら健康管理を行うことができる。
- ・ 個別の健康アドバイスに基づく生活習慣の改善ができる。



行政の活動

- ・ デジタル技術を活用した健康寿命延伸などの地域課題解決施策の実施。

行政のメリット

- ・ 住民の健康寿命延伸を実現。
- ・ データ駆動型の政策改善が可能となり、住民ニーズに即した施策を推進。
- ・ 産学官の連携を通じて、地域課題に対応するための強固な基盤を作り、効率的な施策運営を実現。